

## SDGs推進委員会『環境共棲住宅 SDGsチャレンジ』開催報告

自社のSDGsを0から考え、共に未来への第一歩を今踏み出そう！

SDGs推進委員会では『環境共棲住宅 SDGsチャレンジ』を企画。参加社募集WEB説明会を、2020年10月29日に開催いたしました。

説明会当日は、21社32名もの方々にご参加いただきました。その後、2020年11月19日に開催されたキックオフ会議では、会員12社が参加を表明。

2021年6月開催の東海サミットでの発表(中間報告)に向けて、SDGsの視点で各社の経営・事業活動を整理し、具体的な数値目標を設定すべく、活動を推進しています。

SDGs推進委員会では、環境共棲住宅SDGsチャレンジの参加社を募集しております。途中参加も随時受付中です。参加ご希望の方は、地球の会事務局へお問い合わせください(Tel. 06-6292-8121)。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs推進委員会  
委員長 石橋 常行 氏



『環境共棲住宅 SDGsチャレンジ』の取り組みについては、参加者募集WEB説明会の録画映像をご覧ください。



- 参加募集WEB説明会 録画映像視聴用URL  
⇒ <https://us02web.zoom.us/rec/share/TFeWj-xyWMzECAFqtrAq9gj7XPxm1bq98VznQKJAdtnAuvCtiZ3AgEjvDSfRTVQI.I3dggXQ0jT7B3hBa>
- パスコード: V%Grj4gn
- 10/29登壇者資料 ⇒ <https://xfs.jp/aqvU7d>

## 『第4期分科会 第2回合同WEB会議 / あすなろ会 第25回WEB会合』開催案内

2021年1月に、「分科会第2回合同会議」「第25回あすなろ会」をZOOM(WEB)にて開催いたします。

### ■ 第4期分科会 第2回合同WEB会議

- 1 日 時: 2021年1月21日(木) 13:00~16:00
- 2 会 場: ZOOMルーム
- 3 参加費: 3,000円/1名様

### ■ あすなろ会 第25回WEB会合

- 1 日 時: 2021年1月22日(金) 14:00~17:00
- 2 会 場: ZOOMルーム
- 3 参加費: 3,000円/1名様

※ 1/22(金)17時より「分科会・あすなろ会合同 WEB情報交流会(ZOOM懇親会)」を開催いたします。詳細については、地球の会事務局よりお送りした開催のご案内メール(2020年12月21日配信)をご覧ください。

## 地球の会『協力会員 特集』 第十一号

### 株式会社 伸栄木材

[会社概要]

製材業を営む弊社は、緑豊かな「木の国」和歌山の森で育った良質な紀州材(杉・桧)を専門に製材し、木造建築全般の材料をご提供しております。杉の構造材の人工乾燥材を主力に、鴨居や枠材などの造作材を、地元業者の方だけでなく東京・大阪・京都・九州などの各方面の皆様にもお届けしています。

- 認証
  - ・ JAS機械等級区分構造用製材 / 紀州材証明 / 合法木材 / クリーンウッド

[ピックス]

本年度は、新型コロナ感染拡大の為、世の中のすべての有様が激変した年でもありました。弊社では営業、面談等の外向きの活動が制限される中、感染拡大の防止策をとりながら社内で従業員との話し合いの時間を増やしました。社会情勢が大きく変化の中で、今私たちは何をすべきか、先を見据えた行動は何かを考え、従業員のモチベーションの維持・向上・改革に取り組み成果を得ることが出来ています。

[会員へのメッセージ]



代表取締役 栗栖 万博 氏

『木の温もりを伝えたい』をモットーに、皆さまに良質な地元の紀州木材を提供し、一般住宅のみならず、非住宅建築物における木造・木質化への利用拡大に取り組んでいます。また、山林事業を通じて、山・森の保全に努め、地球に優しい会社づくりを目指しています。



地球の会 Vol.61  
NPO法人 環境共棲住宅  
2021年1月15日発行  
530-0022 大阪府北区浪花町1-23 第10新興ビル601  
TEL06-6292-8121 FAX06-6292-8122  
e-mail:info@chikyunokai.com  
http://www.chikyunokai.com  
発行責任者: 安成 信次

理事長 安成 信次



新年 あけましておめでとうございます。  
コロナ禍の中、不自由な私生活を余儀なくされ、営業的にもお客様の来場数が減少するなど先行きが不透明な状況は変わりません。一方で、「家」や「家族との時間」がクローズアップされ、豊かな暮らしを求めめる方が増えていることは、真に健康な暮らしを提供できる地域工務店にとって大きなチャンスでもあります。各論に惑わされることなく、本筋である「健康な暮らしを提供できる木の家」を高いデザイン性と精緻な手仕事で仕上げ、エネルギー自給できる高性能住宅としてアピールをする。それが、SDGsの概念からも他を圧倒する高得点となることを信じてコツコツと努力を続けるしか方法はありません。頑張りましょう。

副理事長 吉瀬 融



新年 あけましておめでとうございます。  
世界史に残るであろうこの出来事は、いつ終わるとも知れず、新年を迎えて、コロナ禍から抜け出せる保証のない中、地球の会のメンバー、そして委員会活動における皆さまの活躍に凄さを感じ、どんな状況でも負けない活動ぶりに勇気を頂きました。新年会の中止が多い中で、一抹の寂しさはありますが新しい一月の風景に出会う喜びを感じながら、今後の社業の行方をじっくり考える良い機会かもしれません。新年の干支は「丑」。ちなみに「丑」には、「結ぶ」「掴む」といった意味の他にこれまで曲っていた芽が伸びていくような姿から「はじめ」という意味もあるそうです。さあ、本年もいよいよはじまります。皆さまの今年一年のご多幸をお祈り申し上げます。

副理事長 石橋 常行



新年 あけましておめでとうございます。  
2021年はどういう年になるのか? 新年を迎え、皆さま方も色々と思い馳せていることと思います。昨年の世界的な危機を体験し、私が感じたことは、「常識を疑う」ことでありました。これまでの常識を一つ一つ疑い、変化させていくことが求められています。住宅業界は他業界に比べて遅れていることが多々あり、オンラインやテレワーク、WEBなどはその代表的な項目であります。これまでの延長線上では、解決できないことも多い。コロナ禍においては、ピンチを最大のチャンスと捉え、大変革が出来る時代です。木の家づくり工務店には、寧ろ良い時代だと感じています。変化を恐れず、一步一步着実に進んで参りたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

地域と共に、世界に誇れる住文化の創造

# 新しい時代の「新・近江商人の家」づくりを目指す

## MEMBER'S PROFILE

### 株式会社 木屋長工務店

代表取締役 和田孝浩氏



滋賀県東近江市

『創業117年。近江の地で培った』

大工の伝統技術と  
設計デザイン力で

近江の家づくりを進化させる』

<http://www.kiyacho.jp/>



『守山事務所（模型写真）』

### 創業117年を誇る 老舗工務店

それまで「木屋」という名前で材木業を営んでいた小梶長次郎が大工となり、「大工木屋長」として創業したのが1903年(明治36年)だった。

その後、1967年(昭和42年)「木屋長工務店」として設立され、1989年(平成元年)現和田会長によって、「株式会社木屋長工務店」へと組織変更された。

滋賀県湖東の八日市、近江を中心に100年以上の歴史を誇る老舗工務店である。

地域の古い病院、数多くの郵便局、様々な庁舎、近江商人で名高い、伊藤忠や丸紅の創始者伊藤忠兵衛旧邸の茶室の改修なども手掛けてきた。2005年(平成17年)に社長に就任した和田孝浩は4代目である。

### 木屋長工務店の 「流儀」

木屋長工務店の会社案内には、「近江には、古より受け継がれる豊かな自然と、暮らしがあります。清らかな水を湛えた母なる琵琶湖、おおらかに緑なす父なる山々…ここは古来から豊か

な文化が育まれた“茜さす万葉ロマン”の地。

この歴史ある地で、そこに暮らす人々に支えられ、育てていただいた木屋長工務店は、この地の優れた文化とゆかしさを、次の世代に伝えていきます。百年後の未来にも、近江の文化と万葉の心が大切に守り、伝えられていますように、百年先の風景を心に描きながら、百年後も美しい家、住まう人から愛される家をつくり続けます」とその理念が綴られている。

これを具体的に形づけるために木屋長工務店には大切に守られている「流儀」がある。

一つは、「私達が守り生かすもの」—それは近江の豊かな暮らしと大工の伝統技術。

もう一つは、「自らの手で新たに紡ぎ出すもの」—それは創造性豊かな設計デザイン力で描く現代の暮らし。

これが木屋長工務店の流儀である。

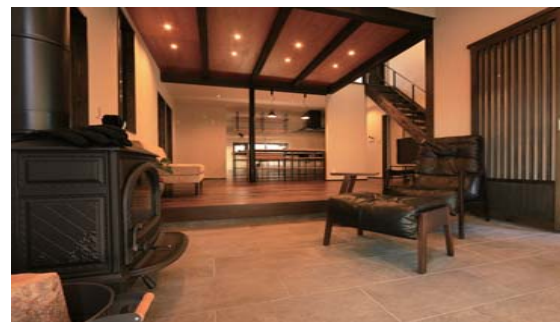
この二つの「伝統の技術」と「創造性豊かなデザイン力」で木屋長工務店は、一人一人の暮らしを実現するためにスタイルを描き出し、自由な発想で創造性豊かな、設計デザインを生み出し、大工の確かな技術で「ただ一つの家」を実現することが使命であるという。



『株式会社木屋長工務店 守山事務所（外観）』



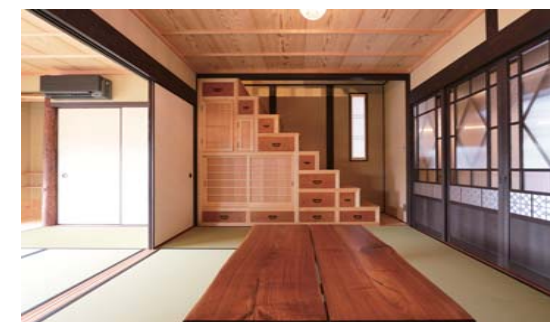
『陰影をたのしむ家』(外観)



『陰影をたのしむ家』(内観)



『平屋のクノジハウス』(外観)



『職人技が光る階段筆笥がある客間』

### 木屋長工務店らしい 家づくりとは

現和田社長が引き継いだ時点で、木屋長工務店はほぼ住宅事業中心の会社になっていた。現在は社員大工7人を含む10名の大工と設計担当者6名など、総勢30名、新築住宅を年間25棟前後、リフォーム事業1億5千万円前後の事業体制の会社である。

滋賀県の湖東地域は、近江八幡から長浜に至るまで、今でも新幹線の窓からもその豊かな家並みを見ることができ、とても立派な伝統的な家が建てられていた。そういう中で、木屋長工務店の住宅は経営理念、使命にもあるように、「甲良大工」と言われた滋賀県の伝統的な高い大工の技術と、創造性豊かな設計デザイン力で地域では多くの質の高い住宅を建ててきた。しかし、時代が進む中で家の大きさ、つくり方も大きく変わり、なかなか木屋長工務店の力を活かせる住宅が少なくなってきた。今のこの時代背景の中で、和田社長はこの間、これからの木屋長工務店の住宅の方向を考えてきた。決して時代に流されない木屋長工務店らしい家づくりとは何かどんな家なのか、そのことを模索していた。

### 現代に生きる 「新・近江商人の家」 プロジェクト

2020年を前にした昨年、世の中が大きく変わろうという兆しを感じた和田社長は、新たな時代に向けた新しいコンセプトの家づくりをスタートさせた。社内でこの地域のことを検討していく中で、浮かびあがってきたのは「近江商人」というキーワードだった。

近江八幡には今でも近江商人の家が水郷の周りにいくつも残っている。それらを見て廻るうちに、「これだ！！」とひらめいた。

この地に生まれ家づくりに携わる我々の使命は、これからの時代、未来に蘇らせる「新しい近江商人の家」を開発することではないか、と思えてきた。

現代に生きる若い人たちにも共感を得られる新しいデザインを開発すること。これこそ、これまで培った大工技術と評価の高い設計デザイン力をフルに活かし、より高いところに引き上げていくことが、我々の今最もしなければならないことではないかということに気付いた。

この近江の地でさらに燦然と輝く地位を目指して、新たな家づくりプロジェクトをスタートさせた。

### 新たなモデルハウスと 新事業ビジョン づくりへ

ちょうどこれまで、モデルハウスとして借りていた土地を返却しなければならなかったため、すぐに具体的な行動を起こした。

幸い400坪の土地を街道沿いに購入できたので、「地球の会」で知り合った建築家の先生に協力をお願いに行った。和田社長の考え方にとっても共感してくれた先生と一緒に再度、近江八幡の水郷の周りの近江商人の家を見て廻った。付近には純日本風の住宅に交じって西洋の有名建築家によって建てられた名高い洋風の住宅がいくつもある。様々なアイデアが湧いてきて、新しい家づくりが見えてきた。

しかし、計画が具体化していった矢先、「新型コロナウイルス騒動」が起こり、やむなく計画をずらさざるをえなくなったが、事務所となる建物だけは2020年暮れに完成させることができた。

新たなモデルハウスのプランもほぼできてきている。新しい年には、新しいモデルハウスの建設、そして、温めてきた「新・近江商人の家」の事業ビジョンを展開していこうと、和田社長は社員みんなと新しい年に向けて燃えている。